

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

木島平村教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（文部科学省）

2 検査実施日 4月18日（木）

3 調査対象 小学6年生、中学3年生

4 調査内容

(1) 教科に対する調査

○小学6年生：国語・算数 ○中学3年生：国語・数学

(2) 質問紙調査

○児童生徒に対する質問紙調査 ○学校に対する質問紙調査

5 「教科に関する調査」の結果概要と改善の方向

(1) 小学6年生

① 国語

人物像や物語の全体像を具体的に想像したりする問題では、一定の理解度を示していました。情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことは高い数値でした。また、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることもできていました。

一方、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することに課題が見られました。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で、正しく使うことに課題が見られました。

これからの学習において、伝えたいことを明確にし、身近な事象に置き換えて、客観的に考えをより深めていくことができるようにする指導、学年相当の漢字の習得に関する指導の充実が大切であると考えられます。「平均正答率：61%」

② 算数

図形についての基礎的・基本的な知識・技能は、一定の理解度を示していますが、球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係から、立方体の体積の求め方を式に表すなど、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られました。図形を構成する要素を見出し、それを活用する発展的な指導が必要であると考えられます。

数量の関係では、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。問題場面の数量の関係を捉え、どのように解を導くかを問う学習を丁寧に行う必要があると考えられます。

また、速さを道のりとの関係から捉えることはできましたが、速さが違う理由を言葉や数を用いて記述することには課題が見られました。速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比較したりし、日常生活と照らし合わせて考察するなどの学びが必要であると考えられます。「平均正答率：55%」

(2) 中学3年生

① 国語

文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈したり、文中の情報を基に、具体と抽象など、情報と情報との関係について理解したりすることはできていました。

また、物語文の成文の順序や照応についての理解、文脈に即して漢字を正しく書くことなどについても、高い理解度を示していました。短歌に用いられる表現の技法についての理解、短歌の内容について描写を基に捉えることに優れています。

話合いの話題や展開を踏まえ、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめたり、目的に応じて必要な情報に着目したりして、要約することに課題が見られました。

記述式問題で無解答が見られました。内容を解釈する際に、自身の考えたことを説明したり、他者の意見を傾聴したりして、自身の考えをまとめる指導が有効であると考えられます。「平均正答率：65%」

② 数学

一次関数について、基礎的・基本的な知識・技能は身につけていると考えられます。問題解決の過程を数学的な表現を用いて説明したり、式とグラフの特徴を関連付けて理解することができています。

図形では、回転移動について理解していますが、三角形の合同を基にして筋道を立てて証明する。事象の角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果について説明するなどについて、課題が見られました。点と線分の図形問題において、角の大きさを証明する学習経験が必要と考えられます。

また、データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。複数の集団のデータ分布を比較するなどの活動を通して、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが必要と考えられます。

「平均正答率：60%」

6 「児童生徒の質問紙調査」の結果概要と改善の方向

(1) 小学6年生

生活面では「朝食を毎日食べる」、「毎日同じぐらいの時刻に寝る、起きる」など、概ね規則正しい生活が送れています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」の問いに、多くの児童が普段の生活の中で、幸せを感じる時があると解答しています。

学校生活では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的な回答があり、先生と子どもたちとの信頼関係が築けていると考えられます。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」、「人が困っているときは、進んで助けますか」の問いには、多くの児童が「いじめはいけない」「困っている人がいたら進んで助ける」と回答しました。今後も学級・学校で一人ひとりの人権が尊重される運営がなされることが重要です。

自主・自学では、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の問いにも肯定的な回答をしています。また、「友だちや周囲の人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組みますか」という協同的な学びを問う設問に対しても、高い数値が見られました。

タブレットやICTを活用した学習は、多くの児童がその有効性を感じながらも活用できていないという課題が見られました。

(2) 中学3年生

生活面では、小学6年生と同様に「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時刻に寝る、起きる」など、規則正しい生活が送れています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いには、全生徒が「役に立ちたい」と答えています。自己肯定感や有用感の指標である「自分にはよいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」の問いには、多くの生徒が「そう思う」「持っている」と解答しています。

携帯電話、スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の問いに、守れている生徒が10%台という課題が見られました。PC・タブレット等のICT機器の活用について、生徒がトラブルに遭遇しないためにも家庭でのルールや約束事、定期的な確認が必要であると考えられます。

学習面では、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。各教科などで学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。自分にあった考え方、教材、学習時間になっていた」など、課題に対して主体的に取り組んでいることを問う設問では、「自分から取り組んでいる」との解答が多く、自律する学び手として、学習に取り組んでいることが伺われます。

また、総合的な学習の時間（未来塾）では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いでは、全生徒が「取り組んでいる」と答えています。総合的な学習の時間（未来塾）は、生徒たちにとって、課題追究する探究的な学習になっていると考えられます。

7 今後の取組

調査結果については、平均正答率や各設問の正誤だけに着目するのではなく、一人ひとりの児童生徒が、どのように解を導き出そうとしているのか。どこでつまづいているのかという、各設問の解答状況に着目し、学習指導の改善・充実を図ることが求められます。

課題として挙げられた内容については、調査対象の学年のみならず、学校が一体となつてすべての学年の指導の改善・充実に生かしていくことが求められます。

また、児童生徒の学習状況から見えてくる「生活習慣の様子」、「ICTの利用状況」等、家庭に呼び掛けて改善を図る必要がある内容については、学校と家庭との連携を密にして、その改善・充実に努めていきたい。